

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 25. 10. 30 第 185 回国会第 2 号

10 月 30 日（水）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 農林水産関係の基本施策に関する件

- ・ 林農林水産大臣、櫻田文部科学副大臣、江藤農林水産副大臣、小泉内閣府大臣政務官、小里農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

森 山 裕君（自民）

- ・ 農林水産業の現場に対する T P P 交渉についての正確な情報の提供に、どのように取り組んでいくのか。
- ・ T P P 交渉の中で、重要 5 品目等について、今後どのように主張していくのか。
- ・ T P P 交渉の年内妥結の見通しはどうか。また、それを踏まえて今後どのように交渉に当たっていくのか。

後 藤 齋君（民主）

- ・ 「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録される見込みの中で、食品表示に関する問題解決に向けて、農林水産省は消費者庁とどのように連携していくのか。
- ・ 農林水産省は、文部科学省とともに産学官連携による多収穫米等の研究・開発を積極的に進めるべきではないか。
- ・ 米の生産調整廃止に当たっては、収入保険制度を創設した上で議論すべきであるが、農林水産大臣はどのように考えているのか。

玉 木 雄一郎君（民主）

- ・ T P P が東日本大震災の被災地の復興にどのような影響を与えると認識しているのか。
- ・ 甘利国務大臣は今月 22 日の衆議院予算委員会で「党の方で、5 品目の中身の精査をされていることは承知しており、資料要求等があれば協力していきたい」旨の答弁をしているが、政府から与党に対して情報提供をしているのか。
- ・ 重要 5 品目とされる 586 のタリフラインを明らかにするべきではないか。

畑 浩 治君（生活）

- ・ 新マルキン（肉用牛肥育経営安定特別対策）事業の地域算定のモデル実施に必要な取引価格等のデータ収集

に係る要件を緩和するべきではないか。

- ・ 岩手県で生産している日本短角種は豪州産牛肉と競合するが、T P P 交渉において牛肉の関税についてどのような方針で取り組んでいるのか。
- ・ 交渉相手国との信頼関係を理由に T P P 交渉の秘密保持契約の内容を明らかにしないが、今年 4 月の衆参両院の農林水産委員会決議についてどのように認識しているのか。

鈴 木 義 弘君（維新）

- ・ 農業の在り方を大きく変える時期に来ているが、農林水産大臣はどのように考えているのか。
- ・ 輸入に依存している飼料用とうもろこしについて国内で生産可能な新品種の開発にこれまで取り組んでこなかったのは何故か。
- ・ 攻めの農政を推進する上で過去の施策の検証が必要だが、生産調整及び経営所得安定対策の効果についてどのように認識しているのか。

村 岡 敏 英君（維新）

- ・ 台風・集中豪雨により、激甚災害に指定された 3 件の農業被害状況はどのようになっているのか。
- ・ 産業競争力会議で民間議員から生産調整の見直し等の提言があったが、農政の大転換について、政務三役はどのように認識しているのか。
- ・ 生産調整の見直し等の施策を特区で取り組んでみるべきではないか。

林 宙 紀君（みんな）

- ・ 平成 25 年 9 月 6 日、みんなの党が農林水産大臣に行った被ばく牛に汚染牧草等を給与することについての要請への対応の進捗状況はどのようなものか。
- ・ 被ばく牛は、家畜への放射線影響の研究において貴重な調査対象と考えるが、農林水産省としてはどのように考

えるか。
・暫定許容値を超える牧草や稲わらの問題について、対応の必要性を政府内で共有し、解決を図ることはできないのか。

鷺尾 英一郎君（民主）

・政府・与党において生産調整の見直しの議論が行われて

いるが、この見直しの選択肢の中には廃止することも含まれるのか。
・企業の農業参入には様々な懸念があると言われていたが、現在はどのような状況か。
・自動車関税に係る平成 25 年 4 月の日米協議の結果を踏まえた上で、TPPに係る政府統一試算をやり直すべきではないか。

2 農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律案（内閣提出第8号）

・林農林水産大臣から提案理由の説明を聴取しました。